6日　火曜

列王Ⅱ

19:29 あなたへのしるしは、このとおりである。『今年は、落ち穂から生えたものを食べ、二年目は、それから生えたものを食べ、三年目は、種を蒔いて刈り入れ、ぶどう畑を作ってその実を食べる。
19:30 ユダの家の中の逃れの者、残された者は下に根を張り、上に実を結ぶ。
19:31 エルサレムから残りの者が、シオンの山から、逃れの者が出て来るからである。万軍の【主】の熱心がこれを成し遂げる。』
19:32 それゆえ、アッシリアの王について、【主】はこう言われる。『彼はこの都に侵入しない。また、ここに矢を放たず、これに盾をもって迫らず、塁を築いてこれを攻めることもない。
19:33 彼は、もと来た道を引き返し、この都には入らない――【主】のことば――。
19:34 わたしはこの都を守って、これを救う。わたしのために、わたしのしもべダビデのために。』」
19:35 その夜、【主】の使いが出て行き、アッシリアの陣営で十八万五千人を打ち殺した。人々が翌朝早く起きて見ると、なんと、彼らはみな死体となっていた。
19:36 アッシリアの王センナケリブは陣をたたんで去り、帰ってニネベに住んだ。
19:37 彼が自分の神ニスロクの神殿で拝んでいたとき、その息子たち、アデラメレクとサルエツェルは、剣で彼を打ち殺した。彼らはアララテの地へ逃れ、彼の子エサル・ハドンが代わって王となった。

20節から主の答えが続きます。そして突然に主のみわざが起きました。主のみことばがあってからすぐであり、まるで当たり前のことが起きたかのように淡々と書かれています。

主のみわざは当たり前に起きるのです。あれほどの権力を誇り、ユダヤにも大きな脅威となっていたセナケリブはいとも簡単に殺されて、王位が奪われてしまいました。彼は子に殺されたとありますから、日頃よりその素行や人間性は反感を呼ぶようなものであったのでしょう。または子どもが彼から善を学ぶことはないような人間性であったのでしょう。

神に敵対する力がどんなに強大であっても、それ実際はもろいものなのです。神の前にその悪が暴かれつつ滅びてゆきます。何よりも「主の使い」によって、いとも簡単に滅ぼされるてしまうのが、神の敵の運命です。

しかしそこに至るまでには、信仰者は忍耐し、試され、決断をしなくてはなりません。聖書から学びつつ、みことばと共に働かれる神様を体験しつつ、当たり前に勝利をお取りになる神様を、当たり前のように信頼してゆきましょう。

Bible Reference 聖書の記述

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？